

地獄の水から根を張って、開かれてきた沢山の扉

2021年4月23日

医療福祉ジャーナリズム分野 修士2年

吉田 和佳子

保坂 展人 先生

「気骨のある」という言葉がぴったりな保坂先生。実際目の前にすると、誰でも何事をも、まず受けとめて応えようとされる、大きくて優しい方であることが伝わってきて惹きつけられます。

10代の頃から揺らがない信念があって強いものに巻かれられない、その驚異的な強さは、いったいどこからやってくるのでしょうか。

事前資料を読んだとき、学校や周囲に合わせようとしないう中学生時代の保坂先生の尖った部分が不器用に見えて、つ

い最近みた映画「すばらしき世界」で役所広司さんが演じる主人公とその点で重なるところがありました。損得で選択をしたり、見て見ぬふりができず、真っ直ぐすぎて、社会に適応できない。その強く屈折した人生を通して、社会に疑問を投げかける内容でした。

保坂先生には高い志があって、折れてしまいそうな逆境をも木の根が水分を吸収するように糧にされておられる。太く粘り強く成長して、導かれるように次々と扉が開かれる様子が、伊豆大島で撮ったこの木の写真のようです。

その強さの根底には、強い自己肯定感があることがわかり、やっぱりそこなんだと思いました。自己肯定感をもてるような教育はきつととても大事ですね。

「逆風、マイナスを抑えながら行くことも大事」というご発言がありました。今、中学生の展人少年に合えるとしたら、どのようなアドバイスをされるのか伺ってみたいくなりました。

目が覚めるようなご講義でした。ありがとうございました。

